

会議録

会議の名称	西東京市学校選択制度に関する検討懇談会 第2回会議
開催日時	令和3年10月11日(月) 午後3時00分から午後4時45分まで
開催場所	田無第二庁舎 4階会議室
出席者	<委員> 田口康之、遠藤真司、高橋 亨、湯浅泰美、渡邊俊一、三沢英俊、古家新一、勝見俊也、宮崎徳子、戸本堅固、松尾新太郎、築谷敦之、松本 静、北澤 敏、小松豊明、荘 葉子(順不同、敬称略) <事務局> 大谷 健(学務課長)、田中美奈(学務課学務係長) 山本淳貴(学務課学務係)
傍聴者	4人
議 題	1 開会 2 会議録の確認 3 制度の現状について 4 アンケート案について 5 その他 6 閉会
会議資料の名称	資料1 検討懇談会(第1回)会議録(案) 資料2 学校選択制度の他自治体での実施状況について 資料3 通学区域を越えて通学している人数 資料4 令和4年度学校選択制度のご案内 資料5 学校選択制度に関するアンケート(概要) 資料6 アンケート調査項目(小学生) 資料7 アンケート調査項目(中学生) 資料8 アンケート調査項目(小学校保護者) 資料9 アンケート調査項目(中学校保護者) 資料10 アンケート調査項目(一般市民) 資料11 アンケート調査項目(特別支援学級) 資料12 今後のスケジュールについて
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><○発言者：発言内容></p> <p>開会</p> <p>○事務局：本日は、アンケート案についてご意見をいただきながら整理をさせていただきたい。</p> <p>議題2 会議録の確認</p> <p>○座長：第1回の会議録(案)について、訂正すべき箇所などがあれば発言願いたい。</p> <p>○委員：意見に対しての答えが記載されていないが、意見が通らなかったということか。</p> <p>○事務局：いただいた意見は会議録として記録するほか、懇談会の報告書として最終的にまとめていく予定である。</p>	

○座長：それでは第1回目の会議録は正式なものとする。

議題3 制度の現状について

○事務局：資料2から資料4に基づき説明。

○座長：資料について質問・意見がある方は発言願いたい。

○委員：全国的に学校選択制度が広がっていった背景は何が考えられるか。都内の複数の自治体が制度の廃止に至った理由は何が考えられるか。また、西東京市立学校の教員は学校選択制度についてどう感じているか。

○事務局：平成9年に文部科学省から通学区域の弾力的運用に関する通知が発出され、各自治体で研究・検討が始まった。その後も文部科学省から導入後の自治体の事例などが紹介され徐々に普及していったと考えられる。

○座長：学校選択制度によって入学者数見込みが立たず、クラス数が増減することから、翌年の教員体制に影響を及ぼしているという課題がある。教員によっては、制度に対して否定的な意見もあるかもしれない。

○委員：西東京市が自由選択制を採用した理由は何だったのか。

○事務局：幅広い方々に制度を利用してもらいたいという思いがあったと認識している。

○委員：平成25年度以降の全国的な制度導入状況は分からないのか。

○事務局：現在、文部科学省では全国一律で導入状況調査を実施していないと東京都を通じて確認している。都内の導入状況は、近年複数の自治体で廃止しているため減少傾向にある。

議題4 アンケート案について

○事務局：資料5から資料11に基づき説明。

○座長：資料について質問・意見がある方は発言願いたい。

【アンケート全般に関して】

○委員：これまでに学校選択制度に関するアンケート調査をしたことはあるか。

○事務局：毎年度、制度の利用者を対象としたアンケートは実施しているが、制度利用者以外も対象としたアンケートは、制度の導入時に実施した市民意識調査以来である。

○委員：「特色ある教育の提供」や「学習意欲の向上」といった学校選択制度によるメリットは、西東京市でどの程度、実現されているかという指標はあるのか。アンケートから導くことは難しいため、アンケート以外に検討の参考となるデータはあるか。

○事務局：文部科学省などで示されている事例等があれば、次回以降の懇談会で提供させていただく。

○委員：WEB回答にすることによって回答率が減少することも考えられる。

○委員：子どもはアンケートを持ち帰って回答するのか。

○事務局：学校内で回答・回収いただく予定である。

【資料5 関連】

○座長：アンケートの実施目的がメリット・デメリットの検証となっているが、既にメリット・デメリットは明らかになっている。子ども一人ひとりにとって、置かれている状況は異なるため、実施目的を「制度の在り方の検証の参考とするため」に改めた方がよいのではないか。メリット・デメリットを聞いても個人がどう感じたかというレベルまでの話に留まってしまうと思う。

○事務局：アンケートの実施目的を「学校選択制度に関するメリット・デメリットを把握し、学校選択制度に関する検討懇談会での検証の参考とするため」に改める。今回のアンケ

ートでは児童生徒・保護者がメリット・デメリットについてどう感じたか、考えるかを知るために調査を行う予定である。

○座長：「学習意欲が向上した」というメリットに対する評価をアンケートでは測ることは難しいため、「学習の機会が増えましたか」という問いにしたほうがよいと考える。

○事務局：制度の導入目的の一つである「学習意欲の向上」について、保護者に実感してもらっているかを調査したいため、「制度があって良かったと思うか」に対する回答群の一つとして、原案のとおり質問する予定である。

【資料6・7 関連】

○委員：「入学した学校は誰が決めたか」という質問に対し、「特に意識したことはない」というような選択肢があるとよい。

○事務局：選択肢を追加する。

○委員：小中学生にとっては、「学区の学校」という単語になじみがないと思う。

○事務局：「学区の学校」を「指定された学校」に変更する。

○委員：保護者宛のリード文で、制度の課題について触れた方が、アンケートの目的が明瞭となり分かりやすいと考える。

○事務局：リード文に、現在の制度の課題について追記する。

○委員：児童に居住地が学区かどうかの判別は難しいため、質問自体なくてよいと考える。中学校入学時の制度の申請有無についても判別が難しい可能性がある。質問項目を絞り、設問の順番を変えるべきと考える。単刀直入に「学校選択制度を利用しましたか」と聞くべきである。子どもは制度があったほうがよいか質問されても判断できないと考える。地域との繋がりがありますか、と聞かれても回答が難しいと思う。地域との繋がりを問うのではなく「今の学校に入学してよかったですか」と質問するほうがよいと思う。学校選択制度の利用有無と学校への満足度は関係ないと考えるため、学校選択制度を利用して良かったかとその理由について聞くべきと考える。中学生に対して「卒業後も行事に参加したいか」という質問は学校選択制度とは関係ないため削除すべきと考える。

○事務局：

【小学生に対するアンケート】

- ・在籍校は学区の小学校か否か
- ・制度は今後もあったほうがよいか
- ・地域とのつながりについて の質問項目を削除する。

【小中学生に対するアンケート】

- ・学校選択制度を利用しましたか の質問項目は維持する。
(利用の有無により他項目を比較する必要があるため)

【中学生に対するアンケート】

- ・卒業した小学校
- ・在籍校は学区の中学校か否か
- ・入学した中学校についてどう思うか
- ・制度は今後もあったほうがよいか
- ・地域とのつながりについて
- ・卒業後の地域との関わりについて の質問項目を削除する。

- ・学校選択制度を利用して良かったか、またその理由
- ・家の近所のイベントなどへの参加状況について (中3のみ) の質問項目を追加する。

【資料８・９・１０関連】

○委員：学校選択制度と指定校変更制度のどちらを利用したのか分からない保護者も多いと思う。

○事務局：「学校選択制度または指定校変更制度を利用しましたか」の選択肢に「どちらか分からないが利用した」を追加する。選択肢に「利用したかったが利用できなかった」を追加する。「希望していた学校に入学できたか」の質問を削除する。

○委員：「越境通学」はネガティブなイメージを抱くので、「学区外の通学」に変更した方が良いと考える。

○事務局：「越境通学」を「学区外への通学」に文言修正する。

○委員：「在籍校」を「現在、通っている学校」に変更した方がよい。「カリキュラム」を「学校の授業内容」に変更した方がよい。

○事務局：その通り変更する。

○委員：通学距離が長くなった場合でも、リスクが高まるとは限らない。デメリットの文言を精査すべきと考える。

○事務局：「通学距離が長くなり、安全確保が困難な場合があります」に文言修正する。

議題８ その他

事務局：資料８に基づき今後の予定について説明。

閉会